国内情報

アマービレ電子オルガンコンテスト

～素のテクニックを磨く～

金銅 英二

はじめに

2011 年 5 月 22 日、LIC はびきの M ホール（大阪府羽曳野市）にて第 1 回のアマービレ電子オルガンコンテストが開催された。主催は特定非営利活動法人（NPO 法人）電子オルガン普及研究事業「アマービレ」である。同年の学会雑誌「電子キーボード音楽研究 Vol. 6」に NPO 法人の代表者である建石紀子氏からの特別寄稿として報告が掲載されている。今回 2014 年 1 月 19 日第 4 回大会開催まで「アマービレ」が取り組む電子オルガンコンテストについてその活動内容を報告する。

NPO 電子オルガン普及研究事業アマービレ

2010 年 4 月、代表者の建石氏ら有志が「アマービレ」を立ち上げ電子オルガンコンテストを開催することを決定した。その後 2010 年 12 月 6 日大阪府に NPO 法人認証の申請をおこなった。2011 年 3 月 24 日、大阪府の認証を得て 4 月 1 日に法務局に設立登記された。アマービレ設立趣旨は、電子オルガンの発展進化を受け入れる一方で、各楽器の操作法が異なるなどの理由で、電子オルガンの安定的教育が実現しにくい状況を受けて，電子オルガンの「素のテクニックを磨く」という原点に立ち戻り，電子オルガンという楽器全てに共通するコンテストをおこなうことで，幼い子供から年配者まで安心して学び，楽しめる安定的普遍的な場所を提供し，電子オルガンの普及に寄与する。というものである。子供の情操教育の重要性や超高齢化の進む社会に，大人の方々にも心豊かな生活へつなげることも設立趣旨に掲げている[1, 2, 3]。

アマービレ電子オルガンコンテスト

初歩の子供から参加でき「素のテクニック」を磨いていくコンテストとして①機械的な機能を使わず、基本のレジストで与えられた課題曲を丁寧に，かつその楽曲に内在する音楽をいかに美しく表現するかを目標とする。②どのような機種の電子オルガンでも、学び、参加することができる。③各年齢に応じた演奏を、2 度と来ないその時に、美しいステージでのマナーを学びつつ表現する喜びを味わってもらう。以上の項目がコンセプトとして挙げられている[1, 2, 3]。現在、国内で開催されている電子オルガンコンクールでは、最新式の楽器を用いて最高のテクニックを駆使し、最高の音楽を表現し「頂点」を極めることを目指しているが、アマービレ電子オルガンコンテストでは裾野を拡げ、自分自身の今後の課題に気づくことに焦点が当てられている。アマービレでは出場者全員に審査員からの各演奏に対する直筆コメントを手渡し、演奏上の課題を気づくことが出来るようになっている。一度、優勝や入賞すると翌年から出場しなくなる（できなくなる）ということはなく、更なる演奏表現の上達を目指して毎回チャレンジできるように工夫されている。また、出場を決意し、本番まで練習を重ねた努力についても賞賛し、出場者全員に賞を与えている。

第四回大会表彰式(課題曲部門)

コンテスト課題曲部門と自由曲部門

課題曲部門はシンプルなレジストレーションが指定され毎回出版される課題曲集で表示される[4]。またホームページサイト上からレジストレーションデータがダウンロードもできるよう配慮されている。自由曲部門は演奏時間 4 分以内という規制のみで楽曲やレジストレーションなどに制限はない。どんな機能を使用してもよいことや自作でも市販でも自由にレジストレ

ーションデータも使用してよいとなっている。コンテスト企画時より課題曲だけでは十分な出場者確保が困難ではないかという懸念があり、第一回大会より自由曲部門が設置されている。各大会の課題曲は表１にて示す。第一回大会の課題曲の編曲は森松慶子氏が担当、第二回大会からはアマービレコンテストのために作曲された課題曲が提示された。作曲者は佐々木邦雄氏、第三回大会では沖浩一氏と鳥居達子氏が作曲、森松慶子氏が作編曲した。第四回大会は菊地雅春氏が作曲した楽曲をコンテストに提供した。2016 年 1 月 19 日に開催予定の第五回大会では藤村亘氏が楽曲を提供している。

課題曲・自由曲の各部門とも幼児、小学生、中学生、高校生、大学生・一般と年齢別に分けられている（表２）。課題曲と自由曲の両部門に出場する参加者もある。

説明会と講習会

アマービレ電子オルガンコンテストの趣旨や出場の手続きについての説明会や課題曲の講習会・ワークショップなど代表の建石紀子氏や理事の当麻宗宏氏などが講師となり各地の楽器店や音楽センターからの要請を受けて随時開催している。昨夏は本学会でも課題曲提供者である作曲家の菊地雅春氏、建石紀子氏、当麻宗宏氏を招請し、洗足学園音楽大学を会場にワークショップを行った。ワークショップでは、建石氏が趣旨説明を、当麻氏が同大学の専攻学生による課題曲演奏に対して音楽表現の細かな指導をおこなった。的確な指導によって演奏者（専攻大学生）が音への気づきを持ち、曲が大きく変化することに感銘を受けた。

洗足学園音楽大学でのワークショップ（2014 年 8 月 30 日）

審査員

第一回から第四回までアマービレの理事である当麻宗宏氏とジャズオルガニスト佐々木昭雄氏が継続し審査を担当している。さらに相愛大学名誉教授沖浩一氏、電子オルガン奏者内海源太氏は第二回大会から第四回まで、さらに第四回大会では電子オルガン奏者橘ゆり氏も審査を担当し表彰式にて出場者へ講評も述べた。また第一回大会、第三回大会では課題曲作編曲者の森松慶子氏が、第三回大会では課題曲作曲者佐々木邦雄氏も審査に加わった。各大会の審査員は表３に示す。9 時 45 分受付開始に続き、10 時 15 分の開演から 19 時 20 分ごろの表彰式まで長時間に及ぶ審査で審査員の体力も大きく消耗すると想像できる。

出場者

出場者の各部門内訳は表２にて示す。毎回課題曲と自由曲の両部門あわせて 100 曲余り演奏される。これに対し出場者数は 90 余名となっている。演奏曲数と出場者数の差は課題曲と自由曲両部門に挑戦する出場者もいる（一人で二曲演奏）ためである。また出場者の居住地は北海道から鹿児島まで日本の広範囲に及んでいる。これはホームページや SNS などのインターネットからの発信情報を通じ拡がったものと思われる。電子オルガンの将来を考えると若年層、小学生部門などの出場者増加に期待したいところである。中には熱心なピアノの生徒さんの経験や視野を拡げるために本大会に向けて電子オルガンにもチャレンジする機会を与えている指導者もいる。この経験が契機となり電子オルガンにも興味を示し、電子オルガンのレッスンも継続して受講する生徒が増えればと期待する。2016 年 1 月 19 日に第五回大会が予定されており多くの参加者が会場に集まり、盛会となることを期待したい。

コンテストへの応援メッセージ

第一回から第四回まで各大会のプログラムには多数の賛辞や応援メッセージが掲載されている [2)]。第一回大会は日本電子キーボード音楽学会事務局長　阿方俊氏、聖徳大学音楽学部教授　岩井孝信氏、電子オルガン奏者　内海源太氏、アレンジャー名古屋芸術大学音楽学部非常勤講師　太田美香氏、ローランド文化芸術振興財団理事長　梯郁太郎氏、作編曲家　菊地雅春氏、健康ライフサイエンス顧問　和智正忠氏、第二回大会は相愛大学名誉教授　沖浩一氏、ジャズオルガニスト佐々木昭雄氏、電子オルガン奏者　内海源太氏、作曲家　佐々木邦雄氏、アマービレ理事　当麻宗宏氏、第

三回大会は電子オルガン奏者　内海源太氏、相愛大学名誉教授　沖浩一氏、鈴木楽器製作所・ハモンド鈴木代表取締役会長　鈴木萬司氏、ヤマハミュージックジャパン代表取締役社長　土井好広氏、エレクトーンプレーヤー　鳥居達子氏、ローランド株式会社代表取締役社長　三木純一氏、第四回大会は洗足学園音楽大学教授　赤塚博美氏、電子オルガン奏者　内海源太氏、相愛大学名誉教授　沖浩一氏、課題曲作曲者　菊地雅春氏、ジャズオルガニスト　佐々木昭雄氏、昭和音楽大学講師　柴田薫氏､作編曲家･電子オルガン奏者　橘ゆり氏、アマービレ理事　当麻宗宏氏、ヤマハミュージックリテイリング代表取締役社長　葉山和雄氏、ローランド代表取締役社長　三木純一氏、広島文化学園大学学芸学部非常勤講師　森光明氏など電子オルガンメーカー、指導者、演奏家、作編曲家など多岐にわたる。

第三回と第四回大会でのサプライズ企画

第三回大会の課題曲を作曲し楽曲提供した沖浩一氏が第三回大会の課題曲部門の審査発表までの間に課題曲のサプライズ演奏を行なった。さらに自由曲部門審査発表前には内海源太氏がソロ演奏を披露した。そして第四回大会でもコンテストから審査発表までの間にサプライズ演奏が出演者に披露された。当日、審査を担当した佐々木昭雄氏によるハモンドオルガン（Ｂ－３ｐｍｋ２）ソロ演奏。そして、同じく審査員の内海源太氏と第二回大会の大学生・一般部門で金賞を受賞した高崎大輔氏によるデュオ演奏が披露された。プロ演奏家による素晴らしい音楽が会場内に響き、参加者や来場者には知らされていなかったので、よりよいサプライズ・プレゼントとなった。

佐々木昭雄氏のサプライズ演奏（ハモンド Porta B-3）

日本の電子オルガンコンクール

国内電子オルガンのコンクールは、既成楽器の音色や音域を遙かに越えた、豊かな表現力を持つヤマハエレクトーンで、従来にはなかった音楽世界を自由に表現する場として、ヤマハが 1964 年（昭和 39）にエレクトーンコンクールを開始したのが最初である。エレクトーン音楽を楽しむフェスティバル、更に高品質な音楽をめざすコンクールと、目的をそれぞれ明確にして毎年継続して実施し 51 年の歴史を有している[5]。

内海源太氏（ステージア 02c）と高崎大輔氏（アトリエ AT-800）のサプライズ演奏

また、カワイは 1967 年（昭和 42）より電子オルガンコンクール､その後ドリマトーンコンクールとして、また近年ではカワイ音楽コンクールドリマトーン部門として毎年開催しており 48 年間の歴史がある[6]。

第三回大会で課題曲を作曲した沖浩一氏の課題曲演奏

ローランドは 2002 年からローランドオルガンミュージックフェスティバル（第 12 回大会）として開催している[7]。それ以前はローランドが音楽教室事業を買収した VTM（ビクターテクニクス音楽教室）が主催するコンクールが 1991 年から開催されている。また､VTM の前身となる日本ビクター社は 1971 年から 1990 年まで（20 回まで）ビクトロンコンクールを主催している[8]。またナショナル電子オルガン株式会社は 1981 年から 1990 年までテクニトーンコンクールを開催している。ハモンドオルガンは 1980 年に大阪でジュニア大会が開催され、その後各地でも開催され、1983 年 8 月 28 日に森之宮ピロティーホール(大阪市)にてハモンドジュニアコンクール全国大会が開催され、

以降継続開催された[9]。さらに大人の部も開催されるようになり 2013 年まで開催されたが、現在はハモンドコンクール、ジュニア・大人の両部とも行なわれていない。

他のコンクールとの比較

前述の各メーカーが主導のコンクールは電子オルガンの学習者が頂点を目指して修練するために設定されており、その時代の最新機種の機能もフルに効果的に活用し質の高い音楽表現がされているかを評価しているものに対してどんな機種でも演奏できる素のテクニックと音楽表現について評価するアマービレコンテストは他のコンクールとは一線を画す存在であるといえる。また、ピアノのレスナーにも門戸を拡げ、電子オルガン人口を増やす可能性や過去に電子オルガンを指導していたピアノ講師が熱心なレスナーと共に電子オルガンコンクールを目指し、電子オルガン指導の再燃にもつながる可能性を秘めているといえる。

アマービレ電子オルガンコンクールの使用楽器

アマービレが挙げている「どのメーカーの電子オルガンでも学び、参加できる。」というコンセプトのひとつから会場のステージ上には各社の楽器が並べられている。これはメーカーや楽器店、講師などから提供されたものである。ヤマハエレクトーンステージア 02c はヤマハミュージックジャパンとヤマハミュージックリテイリングからバックアップ用を含め 2 台の楽器とトーンキャビネット 2 セットの提供を受けている。ローランドミュージックアトリエ AT-800 とオルガン専用スピーカーはローランドから提供を受けている。第二回大会では出場者の一人がバッハのオルガン曲を演奏するためにローランドクラシック C-330 の提供も受けた。またハモンドオルガンも出場者がいればと毎回、浜松の鈴木楽器本社から Porta B-3 mk2 を提供して頂いている。カワイはコンテストの趣旨に賛同する甲府市や神戸市在住の音楽講師からドリマトーン DT-9 の提供を受けている。

まとめ

電子オルガン誕生以来続く楽器自体の発展進化により、その演奏スタイルも変遷している。これに伴い楽器が備える性能を最大限かつ効果的に生かし音楽表現するチャレンジ、メーカー各社の頂点を目指すチャレンジがコンクールを通じてなされてきた。そして、これらのコンクールから優秀な演奏家、音楽家が社会に多く輩出された。ところが、頂点を目指しているが故に頂点に選考されなかった出場者がいることも事実である。ステージに立つまでの努力研鑽は、また指導者の熱意ある献身的な指導はある意味で評価を受けない。さらに楽器の進化についていけないとコンクールには出場できない。指導者も同様、楽器の進化に必死で追い付いていかねばならない現実が存在する。これらの現状に対して大きく視点を変えたコンクールが企画開催された。メーカーの枠を越え、基本的なレジストレーションで素のテクニックのみで競い合うコンテストである。表彰は出場までの努力を讃えて全員に授与される。さらに出場者各個人に演奏に対する直筆のアドバイス・コメントが審査員（演奏家、作曲家、指導者）から渡される。次の課題へ向けさらに成長するために何度も挑戦し、切磋琢磨できるコンテスト、これがアマービレ電子オルガンコンテストといえる。

第二回大会では最多 5 台の各社電子オルガンが並ぶ
（左からハモンド、カワイ、ヤマハ、ローランド 2 台）

日本で電子オルガンが誕生した当時から指導に携わってきた建石紀子氏と当麻宗宏氏らが永年の経験と知識を生かして、賛同する仲間と共に立ち上げたコンテスト。今後の更なる発展と継続開催に期待したい。今回は、第一回から第四回大会までの開催状況について報告した。次回の第五回大会は 2016 年 1 月 19 日に LIC はびきのMホールで開催が予定されている。

謝 辞

稿を終えるにあたり多くの貴重な情報と資料提供に協力くださった方々(後述) へ心から感謝申し上げます。

表１課題曲

部　　門	第一回大会 2011 年	第二回大会 2012 年	第三回大会 2014 年	第四回大会 2015 年
幼　児	こぎつね かえるのうた	レガート パレード	もりのくまさん(M) なかなおり（T)	おぎょうぎのよいこ ドレドレおじいさん
小学１・２年生	こぎつね かえるのうた	こぶねにのって ファンファーレ	タンゴのように(T) ハッピー・バースディ・トゥ・ユー(M)	かなしいラッパ きぼう
小学３・４年生	大きな古時計 かえるのうた	緑の中の教会 お昼休み	かえりみち(O) コケコッコ(M)	紙ヒコーキとんだ 無人島のおまわりさん
小学５・６年生	大きな古時計 ピクニック	かえり道 追いかけっこ	土曜の午後にレモネード(T) 貴婦人の乗馬(M)	草原を走れ！ 父さんの休日
中学生	ふるさと ずいずいずっころばし	祈り ハイウェイ	またあした（O） クシコスポスト(M)	春を呼ぶワルツ 森の中のオルガン
高校生・一般	山の音楽家 私のお父さん	プレリュード ジェントルマインド	Summer 6 th (T) 海のノスタルジア(T)	寄り添う心 お祭りピエロ
	編曲：森松慶子 （全曲提供）	作曲：佐々木邦雄 （全曲提供）	作曲：沖　浩一(O) 作曲：鳥居聡子(T) 作編曲：森松慶子(M)	作曲：菊地雅春 （全曲提供）

表２出場者（曲数）

部　　門	第一回大会 課題曲・自由曲・計	第二回大会 課題曲・自由曲・計	第三回大会 課題曲・自由曲・計	第四回大会 課題曲・自由曲・計
幼　児	６　０　６	２　０　２	３　０　３	０　０　０
小学１・２年生	６　６　１２	４　１　５	３　２　５	７　３　１０
小学３・４年生	２１　４　２５	１１　４　１５	６　４　１０	４　７　１１
小学５・６年生	５　６　１１	８　４　１２	６　４　１０	８　９　１７
中学生	３　５　８	６　３　９	４　７　１１	２　５　７
高校生	３　３　６	４　３　７	３　２　５	２　３　５
大学生・一般	１４　１８　２３	１５　３２　４７	１９　４３　６２	２２　３６　５６
合計	５８　４２　**100**	５０　４７　**97**	４４　６２　**106**	４５　６３　**108**

出場者 都道府県別	大阪府、京都府、和歌山県、奈良県、兵庫県、東京都、静岡県、香川県、広島県 （8 地区）	大阪府、京都府、和歌山県、奈良県、兵庫県、東京都、静岡県、広島県、北海道、宮城県、千葉県、埼玉県、富山県、徳島県、佐賀県 （15 地区）	大阪府、京都府、和歌山県、奈良県、兵庫県、滋賀県、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、愛知県、山梨県、岐阜県、富山県、徳島県、広島県、鹿児島県 （17 地区）	大阪府、滋賀県、和歌山県、神奈川県、広島県、奈良県、岡山県、兵庫県、山梨県、東京都、京都府、北海道、宮城県、山形県千葉県、富山県、愛知県、岐阜県、愛媛県、鹿児島県 （20 地区）

表３審査員

第一回大会	第二回大会	第三回大会	第四回大会
佐々木昭雄、当麻宗宏、建石紀子、栢本雅子、森松慶子、高木佳子、兵頭信美、柏原智子、奥野彰子、木田和子	佐々木邦雄、沖浩一、佐々木昭雄、内海源太、当麻宗宏	沖浩一、佐々木昭雄、内海源太、当麻宗宏、森松慶子、柏原智子、奥野彰子、	沖浩一、佐々木昭雄、橘ゆり、内海源太、当麻宗宏、

参考文献

1） 建石紀子．第一回アマービレ電子オルガンコンテスト～メーカーを越えて素の演奏技術を磨く場を提供するNPO 法人設立の経緯と実践～．電子キーボード音楽研究 Vol.6、P.93-5.、2011 年 10 月．

2） アマービレ電子オルガンコンテスト第１回～第４回大会 プログラム．

3） 日本電子キーボード音楽学会電子オルガン部会ワークショップ資料、洗足学園音楽大学、2014 年８月．

4） アマービレ電子オルガンコンテスト課題曲集（2011 年、2012 年、2014 年、2015 年）

5） ヤマハ音楽振興会ＨＰ「ヤマハエレクトーンコンクールのあゆみ」
http://www.yamaha-mf.or.jp/el-con/history/

6） カワイ音楽コンクールＨＰ「ドリマトーンコンクール過去の入賞者」
http://competition.kawai.jp/winner.htML

7） ローランドミュージックスクールＨＰ「ローランドオルガンミュージックフェスティバル・過去の大会のレポート」http://www.roland.co.jp/school/contest/omf/news/index.cfm?cat=1

8） 横浜音楽院ＨＰ「横浜音楽院資料室」、http://www.yokohama-music.co.jp/museum.

9） ハモンド・タイムス２巻４号、日本ハモンド SP、1983 年４月 10 日発行、ハモンド・タイムス号外、日本ハモンド SP、1983 年６月５日発行.

＊情報提供ならびにご協力いただいた方々（敬称略/順不同）＊

建石紀子、森松慶子、栢本雅子、柴田 薫、山本 修、山口綾規、脇山 純、古田政伸、池田皓一

＊ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

（松本歯科大学口腔解剖学第一講座　こんどう えいじ）